



I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (星座)		日没		日付	夜半の月齢		月出 (星座)		月没	
	時分	(星 座)	時分	(星 座)		日	時分	時分	(星 座)	時分	(星 座)
1	5:29	(し し)	18:24		1	14.9	17:57	(みづがめ)	4:53		
6	5:33	"	18:17		2	15.9	18:32	(う を)	6:3		
11	5:36	"	18:10		3	16.9	19:7	"	7:13		
16	5:40	"	18:3		4	17.9	19:45	"	8:25		
21	5:44	"	17:56		5	18.9	20:27	(ひつじ)	9:35		
26	5:47	(をとめ)	17:49		6	19.9	21:13	"	10:45		
30	5:51	"	17:41		7	20.9	22:4	(をうし)	11:53		
					8	21.9	23:0	"	12:56		
					9	22.9	—	(ふたご)	13:52		
					10	23.9	0:1	"	14:41		
					11	24.9	1:3	(かに)	15:23		
					12	25.9	2:5	"	16:0		
					13	26.9	3:4	(し う)	16:33		
					14	27.9	4:4	"	17:2		
					15	28.9	5:2	(ろくぶんぎ)	17:30		
					16	0.3	5:58	(し う)	17:57		
					17	1.3	6:54	(をとめ)	18:25		
					18	2.3	7:49	"	18:55		
					19	3.3	8:45	"	19:29		
					20	4.3	9:41	(てんびん)	20:5		
					21	5.3	10:36	"	20:46		
					22	6.3	11:31	(さそり)	21:32		
					23	7.3	12:23	(へびつかひ)	22:23		
					24	8.3	13:11	(いて)	23:19		
					25	9.3	13:56	"	—		
					26	10.3	14:37	(やぎ)	0:20		
					27	11.3	15:16	(みづがめ)	1:24		
					28	12.3	15:51	"	2:30		
					29	13.3	16:26	"	3:38		
					30	14.3	17:1	(う を)	4:48		

II—天象

日	時	天象
2,	20	土(南8°)と月と合
4,		水星極大離角(東27°)
9,		海王星が會合
12,		土星が對衝
13,	18	火(北6°)と月と合
16,	6	水(南5.0°)と金と合
18,	3	水(北1°)と月と合
18,	7	金(北6°)と月と合
18,		水星が停留
23,	5	木(北1°)と月と合
23,	14	秋分
24,		火(北0.8°)とレグルスと合
30,	4	土(南8°)と月と合

満月 9月1日21時37分
 新月 9月16日2時41分

下弦 9月8日12時14分
 上弦 9月24日7時12分

主な流星群

日付	赤緯	赤緯	附近の星	性質
8月—10月上旬	74°	+41°	駱 者 座 η	速痕
21 日 頃	31°	+19°	牡 羊 座 α	緩
27 日 頃	4°	+28°	アンドロメ 座 α	緩
中 旬—下 旬	13°	+6°	魚 座 δ	緩

遊 星 界 (9月)

水星 夕方の西空に見える。観望の絶好期。月末は太陽に近づいてダメ標準1等星よりも遙に明るいのであるから、薄明の中にも見える。位置は乙女座の西部からしばらく東に動き、また戻つて来る。スピカ星と上下にならんでゐるからよくわかる。どちらが上？ 星圖でしらべて下さい。

金星 宵の星、やがて「明星」と呼ばれるやうにならう。水星よりもずつと明るく、近づいたり離れたりする。細い月までが加はつて乙女座をにぎはすのは18日頃、蓋し、美観であらう。カメラにおさめては如何？

火星 暁の星。次第に太陽から遠ざかりつつある。まだ観望には適さない。位置は蟹座から獅子座へ。

木星 南西天に見える「一番星」急速に太陽に近づきつつある。即ち、西に沈むのが早くなるから、今のうちに十分観望を享樂したい。殊に表面に珍しい斑點が見えてゐる。見取圖をはじめめることは今からでも決しておそくはない光度負1.8等。

土星 人気者の土星が12日に對衝の位置に来る。終夜観望に適するわけで大いに歓迎したい。位置は水瓶座の東端。その南に見える輝星は南魚座の α 星である。光度1等級。

天王星 羊座にある夜半後の星、光度6.1等。

海王星 太陽と會合の位置にあり、観望は全く不能。

冥王星 蟹座の西端光度15等級。

× × ×

星座 北斗七星が、西北の山にかくれやうとすると、それを追ふ天の川の諸星座が西へいそぐ、やがてカシオペヤが高く、ペガソスの大四邊形に秋の氣を満喫し、アンドロメダの大星雲を眺め、愛らしい三角や羊の姿の南には輝星の少い魚や鯨が登場する夜半の天空には銀河が東西に流れてゐる。偉なる哉。